カルメル
霊性センターニュース

宇治カルメル会修道院 復活節

2018年5月　　342号

目次

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・２３

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

名古屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

北陸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・・・４４

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５

心の泉

宇治カルメル会修道院玄関 正面

第三巻

第十章　この世を捨てた者にとって、神に奉仕することは喜び

５　自由を与える服従

あなたに仕え、あなたのために一切のものを軽んじることは、大きなほまれ、最高の光栄です。進んであなたへの聖なる奉仕に従う人々は、大きな恵みに満たされるでしょう。あなたへの愛のために、すべての感覚的な快楽を投げ捨てる人々は、聖霊の甘美な慰めを味わうでしょう。また、あなたのみ名のために狭い道を選び、この世のすべてのわずらいを捨てた人は、霊的な自由を獲得するでしょう。

６　主に仕えるのは甘美

ああ、神への楽しく喜ばしい奉仕よ、これによって人間は、真実に自由な者となり、聖なる者となります。人間を天使と等しい者とし、喜ばれる者、悪魔を恐れさせる者、信者たちの模範となるべき者とするのは、実に修道生活の聖なる姿です。ああ、慕わしく望ましい奉仕よ、私たちは、これによって最高の善をもち、永遠の喜びを受けるのです。》

第十一章　心の願望を調べ、またそれを抑えなければならない

１　主

《子よ、あなたは、まだよく知らない多くのことを、学ぶ必要がある。》

２　子

《主よ、それは何でしょうか？》

３　主

《あなたは、自分の望みをまったく私の考えに一致させ、自負心を避け、その代わり、み旨に沿おうという考えだけを養わなければならない。しばしばあなたは、さまざまな望みに燃え立ち、それに押し流される。しかし、あなたが動かされるのは、私の光栄のためか、それとも自分の都合のためかを、よく注意しなさい。もしあなたのおこないの目的が私にあるなら、私がどう定めようとあなたはいつも満足するであろう、しかし、あなたの内に、自分自身の利益を計る心がひそんでいるなら、まさしくそれが、あなたをさまたげ、不安にするのである。

18- 5 月　聖母の月に

マリアのまなざし

あなたを眺めるだけでは

わたしにとって

十分ではありません。

わたしの祈りと生活の貧しさは　わたしを絶望的にさせます。

いつくしみの母、マリアよ

あなたのうちにわたしは逃れたい。

わたしの恵み、からし種をあなたに預けます。

小さく弱い　この種を　成長させてください。

あなたはわたしの母　この祈りを

聞いてくださると信頼しています。＊

聖母の心づかいはわたしたちの生活のあらゆる細部に及びます。聖母はわたしたちの魂のすべての成長に母として心を寄せておられます。＊

新緑の美しい五月の日々、さまざまな出来事に一喜一憂しながらも、母マリアのまなざしのもとに母マリアへの感謝と信頼を日々深めていきたいものです。

伊従　信子（いより　のぶこ）

＊『神と親しく生きる　いのりの道』
　グレール、ギチャール著、
　聖母文庫、聖母の騎士社
＊『聖霊を友に』　ndv 小冊子

創造主への賛美（9）

九里（くのり）　彰

人間であれば、病や苦しみを当然のことながら避けたいと願う。家族の無病息災を神社仏閣で祈願するのもその現れであろう。しかし、それ以上に避けたいのは死ではないだろうか。その意味では、現代の健康ブームも、昔の中国で流行った不老長寿の思潮と大差ない。死にたくない、死にたくないと、みな生にしがみつく。

ところが、フランシスコはこう歌っている。

おお　たたえられよ　わが主
姉妹なる　肉体の死によって
生ける者　だれひとり　そこから　逃れ得ない
災いなるかな　大罪の内に死にゆく者は
幸いなるかな　おん身の　み旨を果たしゆく者は
死が彼らを　そこなうこと無きゆえに

死によっても、フランシスコは神を賛美するのである。死は忌避すべきものではなく、それ自体はニュートラルなのである。それを良くも悪くもするのは、私たちが罪を犯すかいなかにかかっているということである。このような考えは、生と死をつかさどる神への信仰がなければ、生まれて来ないのではないだろうか。

実に、この世の生に執着することは、この世がすべてであり、死んだら終わりだという信仰を持たない人々の考えと大きく変わらないのではないだろうか。

次から次へと災難や不幸がヨブを襲った時、彼の口から出た言葉も、この世の禍福をそのままみ旨として受け入れていく態度を示している。

私は裸で母の胎を出た。
裸でそこに帰ろう。
主は与え、主は奪う。
主のみ名はほめたたえられよ。（ヨブ 1･21）

そもそも、「人間万事　塞翁が馬」（淮南子）で、不幸が幸福の元となったり、幸福が不幸の原因となったりすることがよくある。何が吉で何が凶かは、一生が終わってみないと分からないというのが真実ではないだろうか。

（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（124）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」（1）

十字架の聖ヨハネは、彼の考えを説明しようとするため、時折、事柄や言葉のもっとも本質的なことにもどることを好みました。こうして、例えば、「超自然的なこと」について話さなければならない時、言葉の語源に触れるということが起こりました。「なぜなら《超自然的 sobrenatural》という語は、《自然的なものの上に sobre el natural》登っていくことであり、それゆえ、《自然的なもの》は下に取り残されるのであるから」（2S4,2）です。他の時には、「変装された秘密のはしご」で、という一句の最後の言葉を解説するために、「変装する」という単語の意味や変装の動機などについての情報（2N21,2-3）をしっかり提供しています。また「あなたはこれを盗み去られたのに」（CB9,4-6）という節や、「それは、私の知らぬ何かしら、彼らの口ごもること」（CB7,10）という節を説明するためにも、語源にもどっています。

「エコロジー」について書こうとすれば、まず第一にしなければならないことは、この言葉の語源的基礎へと遡ることでしょう。辞書をひもとくならば、「エコロジー」とは、大まかに言えば、「生きているものとそれらが生存している環境との間の現在の諸関係を研究する」科学や学問分野を意味していることに気づくでしょう。このような単純な概念は、十字架のヨハネが、エコロジーに関する事柄に、常に宗教的地平から―それゆえ、実際的にはそこから何かを引き出すことは不可能ですが―触れていく場合、基本として持っているものです。

明確にしなければならない第一の点は、環境、すなわち自然に対する十字架のヨハネの思想の深遠さです。聖書の言葉や神学者の言葉や観想者の言葉から、すべての事柄について、キリストの復活の光によって照らし出されながら述べているという点で、卓越したまったきヴィジョンを取り扱っています。

復活節第６主日

（ヨハネ１５：９－１７）

「わたしの愛にとどまりなさい」とイエスは言われます。「わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである」と。それはイエスと同じ喜び、同じ愛を共有し、完全な満足で満たされるということでしょう。

イエスはまた別のたとえで「わたしにつながっていなさい」とも言われています。ぶどうの枝が木につながるように「わたしにつながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ」と（ヨハネ 15・4－5）。ここで言う「つながる」も今日の福音の「とどまる」も原語では同じ動詞です。ぶどうの枝はたよりない蔓のような枝ですが、幹につながっていれば、幹の中に流れている同じ樹液が、そのたよりない蔓の中にも流れて来て実を結ぶことができます。幹と枝では見た目はずいぶん違いますが、つながってさえいれば、幹のような立派さは無くても、同じ樹液が流れ、枝として健全に役割を果たすはずです。もし枝に気持ちがあるならば、枝はそれで十分喜んでいるはずでしょう。

私たちも、イエスという立派な幹と比べたら、たよりない小さな人間です。しかし、イエスにつながっていれば（とどまっていれば）、イエスの中に流れる愛は私たちの中にも流れて来て、私たちは実を結び、満たされるのだと思います。

では、イエスにとどまるにはどうしたらいいのでしょうか？イエスはこう言われます。「わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。」イエスの掟を守ることで、私たちはイエスの愛にとどまることができるというのです。そして、「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である」と言われます。

「とどまる」とか「つながる」という言葉は「ステイする」という印象が強く、どちらかと言うと静的です。ところがイエスは、とどまるためには掟を守る必要があり、その掟とはイエスが愛したように互いに愛し合うことだというのです。実は非常にアクティブな行動が要求されているのです。しかも、イエスが愛したように愛するという純粋性、英雄性が要求されています。イエスは無私の愛で人々を愛し、敵をも愛しましたが、私たちはいつも自愛心が先立ってしまい、愛を行ったとしても結局見返りや評価を期待してしまいます。また、愛するよりも怠りや無関心に陥りがちです。

イエスにとどまることは一筋縄でできることではなさそうです。しかし、この高い理想にイエスは私たちを招くのです。できないからこそ、難しいからこそいいのです。いつも飢えている、いつも渇いている、そして求めているという姿勢が大切なのです。「今飢えている人は幸いである。その人たちは満たされるから」です（ルカ 6・21）。しかし「今満腹している人は不幸」なのです（ルカ 6・25）。いつも目標がある。ひたすら上があるからこそ、私たちはもっと上を見つめ、希望を抱き続けることができるのだと思います。人生にいつも目標がある、希望がある、それこそ幸せなことではないでしょうか？

（今泉健神父）

主の昇天　（マルコ 16：15－20）

今日は主の昇天の祭日です。この日はイエスが救い主として地上の使命を完成され、神であるご自分の力で昇天され天の国にお入りになったことを記念します。このことは主の復活から四十日目に弟子たちの目の前でおこりました。この四十日間、多くの人々が信じることが難しい不思議な出来事を通して、イエスは二つのことを証しされました；先ず弟子たちにイエスは約束された救い主であることをはっきり知らせました。次にイエスがもう既に死に打ち勝っておられることを確信させました、イエスのように信仰の内に堅忍する者は誰でも死に打ち勝ち永遠に神の国を受け継ぐ者になることを確信させてくださいました。またイエスは聖霊を送ることを約束されたのです。聖霊は常に共にあって彼らを導き、彼らはエルサレムだけでなくユダヤやサマリア全土において、又地球の至るところでイエスの証人となることを告げられました。

昇天の祭日は過ぎ越しの神秘の一部ともいえます。互いに関連し合っている四つの部分があります：苦難と死；復活；昇天；聖霊の降臨です。これらは一つの現実として密接に関連し合っています。主の復活が十字架上で死に渡されたイエスが生きておられることを示すなら、主の昇天は生きておられるイエスが天の御父と同じ栄光に入られたことを示しています。同時にこの祭日はイエスが真の救世主であることを確信させます

主が昇天されたのは、今からずっと昔の出来事ですが、この昇天のときに仰ったことは、未だにわたしたちの心に響いており、最初の十二使徒たちと同様に、現代社会におけるイエスの証人として、勇気をもって周囲の人々に伝えて行かなければなりません。ですから主の昇天の祭日は、イエスの天に昇られた記念に留まらず、いつでも、いつまでも教会に現存される主の祝日なのです。イエスはその神秘体の頭であり、常にわたしたちのうちに霊的に現存しておられます。事実今日、この祭日に、わたしたちは復活されたイエスが天の御父の栄光に入られたことを宣言します。主イエスは全世界の至るところで、いつの世にも人々とともに現存しておられます。これからは、愛、喜び、平和、忍耐、親切、信仰、柔和があるところには何処にでも、また真実、同情、正義、自由、美しさがあるところには何処にでもイエスの霊があります。その上、イエスは宣教に駆り立てるイエスの霊をお与えになりました。主の昇天の祭日を深く生きましょう。思い巡らしつつ生きることによって、日々の生活の中での思いがけないイエスと出会い、交わりを楽しみにしながら、イエスキリストを告げる者となって日々過ごしましょう。

（Sr. Paulina）

聖霊降臨の主日

（ヨハネ１５：２６－２７、１６：１２－１５）

今日、私たちは、イエスが復活し昇天された後、神が私たちに贈られた大きな恵み、聖霊降臨を祝います。今日の福音の箇所は、イエスが十字架の上で亡くなる前の夜に、弟子たちに語られた告別の説教の一部です。

イエスは、ご自分が父のもとから遣わそうとされておられる「真理の霊」について、弟子たちに語られますが、同時に「今」弟子たちは理解できないことも語られました。この後、弟子たちは、イエスがゲッセマネの園で捕えられた時には、散り散りになってイエスのもとから逃げてしまうほど、この時の弟子たちはまだまだ弱い存在でした。

しかしどうでしょう。イエスが復活され、昇天の後、弟子たちの上に、聖霊が降ると彼らは大きく変えられました。ペトロは大胆にイエスのことを人々の前で恐れず語り、多くの人々がペトロの話に心を打たれ、洗礼を受け仲間に加わったと使徒言行録の中に記されています。

今日の福音の箇所の中でイエスは、聖霊が来られるとき、イエスについて証しをされ、弟子たちも初めからイエスと一緒にいたのだから証しをすると語られましたが、まさにそのことが聖霊降臨において実現した訳です。

父と子と聖霊である三位一体の神、父は御子を遣わし、そしてまた聖霊を遣わされ、私たちがその交わりの中で生きる様に、招いて下さっておられます。日々の生活の中で私たちは父なる神、そしてイエスに祈っていますが、聖霊には祈っているでしょうか。聖霊の存在をどこまで意識しているでしょうか、助け主により頼んでいるでしょうか。

聖霊をいただいた私たちが聖霊に心を開き、真理を悟ることができます様に。聖霊とともに神の子として相応しい歩みを歩んでゆくことができます様に。弟子たちの様に、イエスを証ししてゆける様にと願いながら、聖霊の恵みのうちに歩んでゆきましょう。

（Fr.　古川利雅）

三位一体 の 主日

（マタイ２８：１６－２０）

聖なる三位一体の祭日に教会は、信仰の中心であり、最もはかりしれない神秘である三位一体について思い起こすように招いています、神とはどなたであるかという神秘を知らせ、示す神秘です。キリスト者の生活の実践において、三位一体は祈りの中で、そしてキリスト者の日常の事がらの間に、度々思い起こすものです。祈りの始めにおこなう十字架のしるしのたびに、私たちは「父と子と聖霊のみ名によって」と言います。聖なる三位一体は神ご自身の神秘です。４世紀の使徒信条にあるように「一人であるが孤独ではない」神です。キリストと聖霊を通して、神において三位のペルソナがあり、それぞれが全くの神であり、それらの間の区別はそれぞれの関係にあります。何かを始める前にその存在に祈り、一日に何回も三位一体を思い起こしてはいますが、その完全な意味を理解するのはむずかしいことです。なぜなら、私たちが祈っている御父と御子と聖霊は最大の神秘だからです。私たちの神は三位一体であり、愛と赦しの神です。

今日の福音は、マタイの終わりの節です。この節では、イエスがご自分の使命に弟子たちを任命し、天と地の全ての権能がご自分に与えられていることを宣言しています。イエスは今、本当にご自分のものは何であるかを公言されます。任命それ自体が正式の権限委譲であり、世界中の全ての国、全ての人々に今からずっと福音を伝えるように弟子たちに命じています。教会は全てを受け入れるべきであり、何も排除すべきではありません。信じる人は、三位一体――父と子と聖霊――の名において洗礼を授けられます。これは神の完全な啓示です。これは地上の神の王国に新たに選ばれた人々への導入の秘蹟です。

新しい信者たちは、聖なる三位一体という財産を与えられます。任命は教えることも含んでいます。弟子たちは、イエスが教えたことを他者に教えることになります。山上の教えとか、愛の関係についての教えなどです。イエスは弟子たちが永遠にイエスの現存に頼ることができることを保証しています。福音が語られるところではどこにでも、主はそこにおいでになります。この最後の言葉は励ましと力です。全ての行いと苦しみの真ん中に、イエスはご自分の力を持って彼らと一緒におられます。イエスはそこにいた１１人に対してだけでなく、彼らの後継者たちに対しても、終わりの時代いたるまで、このことを約束しておられます。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 5月

これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、
平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。

（ガラテヤ５・２２）

使徒パウロは、かつて自分が福音を告げ知らせたガラテヤの信徒たちに手紙を書き、「キリスト者の自由」をまったく理解していない彼らを厳しく咎(とが)めています。

パウロは、「自分のエゴの奴隷になって生きること」と、「十字架の死を通してイエスが私たちに与えて下さった霊に導かれて生きること」との間に、どれほど大きな隔たりがあるかを彼らに分からせようとしています。

パウロは、自分のエゴから生じるものは敵対、ねたみ、裏切り、不正、暴力、その類のものに他ならないと語っています。

一方、イエスが私たちに与えてくださった聖霊には、エゴの奴隷から私たちを解き放ち、真の自由へと私たちを導く強い力があるのです。

これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。

キリスト者がもっている自由は、特別な賜物です。しかし、そこに努力も求められます。何よりもまず、自分の心の中に聖霊を迎え入れ、その声に耳を傾ける努力です。

キアラ・ルービックは語っています。「より一層、私たちの内におられる聖霊の存在を意識しましょう。心の奥に計り知れない宝物（聖霊）があるのに、私たちはそれを十分に分かっていないことが多いからです。

聖霊の声にいつも耳を傾け、誘惑やそのいざないには、すぐに『いいえ』と答えましょう。神さまに委ねられた使命やすべての人を愛することに対しては『はい』、そして、困難や試練に出会う時にも『はい』と答えましょう。

聖霊に導かれるなら、私たちも、キリスト者の生活に欠かせないあの味わい、あの活力、あの熱意、あの輝きをきっと体験することでしょう。

そして、普通の人とは何かがちがうのを感じて周りの人も、私たちが神さまの子供であると理解するでしょう」[1]と。

聖霊は、私たちが、自分の心配を脇に置くよう働きます。そして、他の人を受け入れ、他の人の話を聞き、物質的にも精神的にも互いに分かち合い、許しあい、さまざまな状況にある人に注意を払いながら助け合って生きるようにと私たちを招きます。

こうして、私たちも、自分に閉じこもっていたなら気付くこともなかった自分の才能や能力を発見しながら、真に自由な人として成長させてくれる聖霊の働き

を体験することでしょう。
　私たちのすべての思いや行動は、自分のエゴに対しては『いいえ』、愛のうちに自由に生きることには『はい』と答えるチャンスとなります。

これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。

　日々、聖霊に導かれながら生きるなら家庭でも、社会でも、良い人間関係を築いていけるでしょう。
　一人の会社員の方の体験です。
　「ある日、自社の製品販売のために私は、大手の会社の営業部長を訪ねました。あまり関心もなさそうだったので、挨拶して出口に向かいましたが、健康そうでない彼の様子が気になり、何かしなければと心に感じて、もう一度引き返し、彼に『お体の方は本当に大丈夫ですか？』と尋ねてみました。彼は驚いて『なぜ、そんな質問を？』と。『少し気になったものですから』と言って私はそこを後にしました。
　翌日、その営業部長さんから電話がありました。『お礼を言いたくて電話しました。昨日あなたから言われたことがずっと心に響き、夕方病院に行って診てもらうと主治医から、もう少しで手遅れになるところでしたよ。即刻手術しましょう、と言われた』と話してくれ、製品の発注もしてくれました。
　こうして、大事な顧客を得ただけでなく、健康面でもこの方の助けとなることができました。すべての決め手は、愛を最優先させることにあると思いました。」[2]

レティツィア・マグリ

1. キアラ・ルービック『Possediamo un Tesoro (私達の宝物)』チッタノーバ誌、44[2000], 10, p. 7
2. フォコラーレ公式ウェブサイト www.focolare.org 掲載記事（2018年2月22日）より

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い　み言葉を生き、実りを分かち合うために
関東　5月13日（日）13：30～ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
（週日に、調布、鶯沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも）
中部　5月13日（日） 14：00～瀬戸市みずの坂サポートハウスゆうや
長崎　5月27日（日）11：00～　カトリック浦上教会 要理教室
長崎マリアポリ　とき：　5月4日（金・祝）～　5月5日（土・祝）
場所：　長崎カトリック・センター（浦上天主堂前）

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com
ホームページ: coni1157ch1.wix.com/focolare-jp

詩人の魂　　石原淳子

ＮＨＫのラジオ放送で若松英輔氏の「詩と出会う　詩と生きる」という講義を１３回にわたって聴きました。

若松英輔は私にとっては、よくぞみつけちゃいました　というべき作家で、その著作を愛好するものですが、本誌にもこれまで数回取り上げて書いたりしています。　　この度の講義「詩と出会う　詩と生きる」は、その題名のままそのとおりのもので、心の奥深く何者かに出会い、何者かと生きるようにと導かれる、まるで黙想会のような時を過ごすものとなりました。

毎回一人の詩人と作品をもとにひとつのテーマを持った講義がなされ、全編を通して言葉の奥の奥の奥の震えにあるという詩、詩情、詩のこころを目指しています。　それは本質的には受動であり、訪れてくるものを待つという意味を知ることであり、永遠を経験することであり、今を生きることであるのだと氏は言います。　若松氏はどの回も作品から詩人の個を輝かせ、それを普遍の輝きへと結んでおられますが、詩のこころ詩情は、ユングの言う「普遍的無意識」と或る意味同じものと言っておられることは、とても関心深く惹かれました。

私は毎回お話を聴きながら、なぜか十字架の聖ヨハネや大聖テレジアなどなどのカルメルの念祷の道程を、いつも想わずにはおられませんでした。

遠い遠い絶対の実在へ憧れる詩人の魂は、神を花婿と慕う花嫁の切切のこころに余りにも似通っていたのです。

若松英輔著作に詩集「見えない涙」があります。

幾たびも手に取って開くのですが、そこには涙をとおして見える文字がありことばがあります。　どの頁にも氏の渾身の真心が溢れます。

誤解されそうなのを知っての上で言ってみるのですが、詩よりも氏の批評や随筆の方がよいといっているのではありませんが、私が読む若松氏の詩ではないどの文章にも私は切切とした深い詩情を感じているのです。

ＮＨＫラジオ放送にはガイドブックが出ていますが、この「詩と出会う　詩と生きる」は、書物として充ち足りて余りある詩情あふれる一冊と思います。

これからも大切に読み返したいと思っています。

講義は、若松氏の温かみのある爽やかな口跡の声が加わって、今振り返っても本当に詩と出会い詩と生きたと思えるような、得難い時間でした。

若松氏は「読むと書く」という少人数の講座を続けておられるそうですが、私もあと５０年若かったら是非参加したかったと切に思います。

実は先日、５０年どころか６０年ほども若かったころの、当時婚約中の夫に贈った自作の詩が 10 篇ほど不意に見つかり、思わずぎゃっと叫んででんぐり返ししたい気持ちだったのですが、でも、よくよく読んでみれば、若松氏の言う深い詩情をたたえていると思えないでもありません。　私は当時きっと詩人だったのでしょう。　恐縮ながら氏の言葉を拝借すれば「自分の内に言葉になり得ない、しかし、見過ごすことのできない何かが宿るとき人は、内なる詩人をよみがえらせる」となるのでしょうか。

そして今、思い合せればキリストとの遭遇も、言葉を超えた詩情に私は常に覆われ包まれていたのだと知るのです。　その中にあってこそ私は愛する者だけが知る死の意味を、全身全霊で受けとったのではなかったでしょうか。

私はこれからも詩を書いたりはしないまでも、せめて詩のこころを、詩人の魂を、また、深い悲しみを、こころ深く生きてゆきたいと思います。

若松氏の詩集「見えない涙」のあとがきからの一節です。

「言葉はときに消え入りそうないのちに火を灯すことができる。　私が運ぼうとする言葉に、もし、そうした力があるとすれば、それは私にそれを託した者からもたらされた恩寵である。　そのことを一度なりとも想い出していただければありがたく思う」

謹んでこころこめて読みました。

――――――　神に感謝

若松英輔

「天来の使者」

大切なことは／　ひとりのときに／　誰も聞いてくれない／
そう感じながら／ 銀色に光る／　虚空に向かって／　語るがいい／
天使が記録するのは／　いつも／　孤独なつぶやき／
生者だけでなく／　亡き者たちの胸を／　烈しく／
ゆるがすような／　熱き言葉を／　空高く／　放つがいい

「見えない涙」から

（上野毛教会信徒）

糸巻き棒からペンへ(31)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

女性たちは窮地に立たされ、公に言うことができないために、ひそかに涙を流さねばならないというこの個人的な証言は、今日なお、私たちを驚かせます。とはいえ、彼らの賢い用心深さは有益でした。現在に至るまで彼女の著作の大部分が保存されてきたのですから。

前のことに加えて、内的な事柄について書くことの困難が聖女にはありました。十字架の聖ヨハネが言うように（『霊の賛歌』序１）、それらのことには、「ありきたりの普通の言葉」は役に立たないからです。テレジアの最初の著述には、彼女自身が告白しているように、神秘体験に光をあてるため、途方もない努力が必要とされたのです。「長年、私は多くのものを読んでも、それらのことをまったく理解しませんでした。そして長い間、神がお恵みをお与えになさったにもかかわらず、それを理解させるための言葉をまったく見出すことができませんでした。それを見出すことは、私にとって小さな負担ではありませんでした」（『自叙伝』12,6）。

文学的な創造力

他の著者の本の中に彼女が体験していたことに似た箇所を見ると、理解してもらうために、下線を引き始めました。こうして、助言を求めて聴罪司祭や学問のある人々に渡す短い『報告書』を書き始めました。もっと後で、より詳細な報告書を書き上げるでしょう。これらは、さまざまな編集を経て、『自叙伝』の元となりました。そこではまだ、理解してもらうためのあらゆる言葉遣いが意のままにはなっていません。「私は自分の霊魂の内に、何か分からないものを感じました。どのようなものであったかも、またたとえをもってしても、言うことはできないでしょう」（同 33,9）。他の機会には、こう付け加えています。「姉妹達よ、私は愛のこの働きをあなた方に理解させようと必死になっているのです。でも、どのようにしたらよいのか分かりません」（『霊魂の城』6M2,3）。

まさに、自分の体験を伝えることができないということが、つまり、上手に表現できる言葉を探すために、また彼女が体験したことを他者に説明するために、彼女をして生涯、多くの本を読み続けさせることになりました。そのような言葉を見出すことができない場合は、比喩を使ったり、新しいイメージを発明したりしました。それらは彼女には「聖なるたわ言」（『自叙伝』16,4）のように思われました。

（続く）

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< **Communications**（時事通信）>> **2018年4月17日**

ベニス管区、クロアチア管区を訪問

最近、４月３日から６日まで、ベニス管区の司祭と神学生、34人の修士たちが、クロアチア管区の修士たちを訪問しました。この訪問は、二つの管区の間にある絆を再認識したいという望みから起こりました。1950年代から1960年代の終わりまで、何人かのクロアチア管区の神学生や神学者たちが、リチェンチア取得のための勉強や神学課程の数年を、ベニス管区で過ごしました。この二管区の関係は、クロアチアが1991年に独立管区となった時に拡大されました。ヴェローナやトリエステから、カルメル会の助けを求めていた何千もの難民に対する多大な援助がクロアチアの修道院に対して行なわれました。同じ時期、ローマでの神学の勉強を修了しなければならなかった何人かのクロアチアの司祭たちは、サンタ・テレサ修道院で生活をしました。

最初の日の分かち合いは、ザグレブから20kmほど離れたルズニカの聖ビンセンシオ・ア・パウロの姉妹たちの霊性センターで行われました。ロドルフォ・ジラデッロ神父（ベネチア管区）とヤコブ・マミック神父とズレッコ・リマック神父（クロアチアの第2代管区長と現在の管区長）は、両管区の歴史的絆に関する直接的な証言を行ないました（グラーズからペタール神父、トレントからジャンニ神父）。また養成体験の分かち合いの時間もありました。カルメルのカリスマやそれを一般使徒に緊急に伝達していくことについての議論も行われました（アントニオ・シカリ神父）。

第二日目には、修士たちはザグレブへ移動し、カテドラルに安置された福者アロジッジェ・ステピナックの聖遺物に対し崇敬の念を表し、旧市街を訪問しました。レメテで食した後、午後は、両管区の修士たちは、国の聖地であるマリジャ・ビストリカ（ビストリカの聖母―黒いマドンナ）に行き、私たちの兄弟であるズデンコ・クリジック司教（OCD）の司式でミサが行われました。ズデンコ司教と共に、皆は跣足カルメル会の姉妹達に挨拶する機会も得ました。お互いを知るためにとても豊かな体験であったというのが、今回の企画に参加した全員の意見でした。

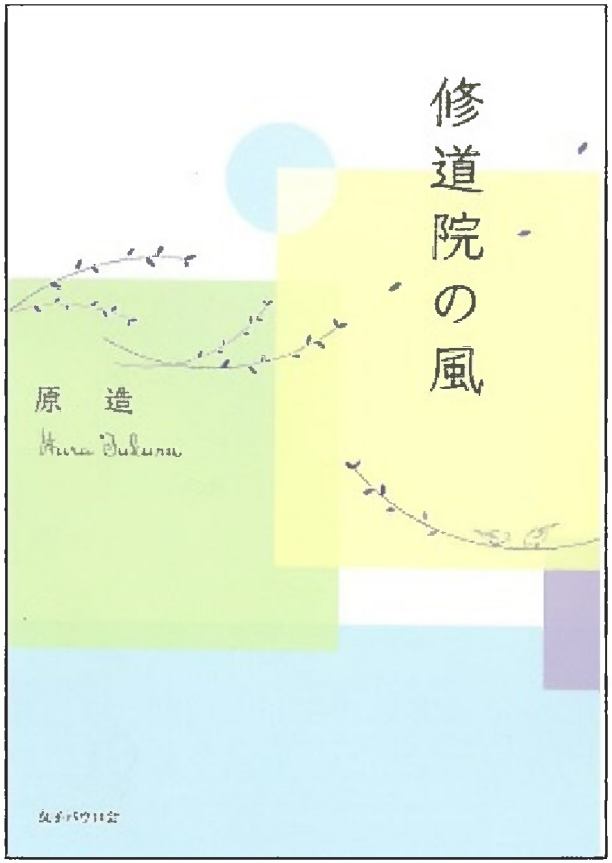
最新刊のご案内

修道院の風

宇治カルメル会 修士　原　造・著

女子パウロ会
新刊案内

5月10日発行



競争社会の真っただ中、ある夜、闇の中に流れ来るふしぎな調べに足を止めた。それは、初めて耳にした、心に沁みる祈りの声――。

この世に、しかも身近に、自分のためではなく、神と人びとのために隠れて生きる人びとがいることも知った。そしてそこから、自分の人生設計にはなかった、洗礼、修道生活という新たな世界へと導かれてきた。

これは、修道士となり、人生も黄昏のときを迎えた祈りの日々の、祈りにふれて綴った随想の風。

著者★原　造（はら　つくる）

1946年　群馬県桐生市生まれ。
1991年　男子跣足カルメル修道会入会。
1997年　荘厳誓願宣立。
現在に至る。

B6判・128頁・定価 本体1,100円＋税
ISBN978-4-7896-0794-0　C0016　NDC194

サンパウロ

愛と英知の道

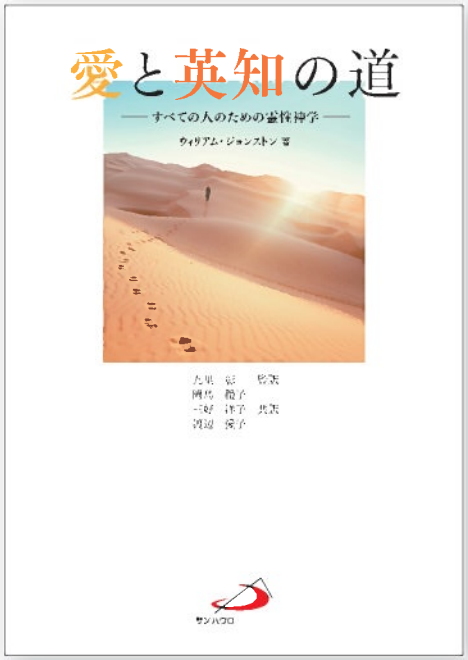
―― すべての人のための霊性神学 ――

ウィリアム・ジョンストン 著

九里　彰　監訳
岡島　禮子　三好　洋子　渡辺　愛子　共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21 世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。『すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが 16 世紀に向けてなしたことを、21 世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渇望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



第一部　キリスト教の伝統
第1章　背　景（1）
第2章　背　景（2）
第3章　理性 対 神秘主義
第4章　神秘主義と愛
第5章　東方のキリスト教
第6章　愛を通して生まれる英知

第二部　対　話
第7章　科学と神秘神学
第8章　修徳主義とアジア
第9章　神秘主義と根源的なエネルギー
第10章　英知と〈空〉

第三部　現代の神秘的な旅
第11章　信仰の旅
第12章　浄化の道
第13章　暗　夜
第14章　〈愛のうちにある〉
第15章　花嫁と花婿
第16章　一　致
第17章　英　知
第18章　活　動
第19章　社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン　William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26 歳で来日。
32 歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85 歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1　C0016

書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美　編

A５判・312 頁・2500 円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など――危機にさらされている人間の救済の道を探る。

――――目次――――

序　「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
1　東日本大震災と宗教／中下大樹
2　宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
3　東日本大震災に思うこと／佐藤純一
4　脱原発の倫理／久保文彦
5　何のために働くのか／神谷秀樹
6　グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
7　私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
8　関係の倫理学／清水正之
9　宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
10　V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
11　「神の子となる」――カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
12　「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
13　エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所　TEL：03-3322-7601　FAX：03-3325-5322
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

オリエンス書籍案内

中川博道　神父の

待望の新刊が出来ました！！

存在の根を探して

●イエスとともに

天地創造、カインとアベルの物語など、聖書に記された人間の姿、そして十戒の現代的意義や主の祈り、イエスの生き方をていねいに見ていくことを通して、心の奥底での神との生きた出会いへと読者をいざなう。カルメル会での４０年にわたる観想生活から生まれた本書は、カルメルの霊性に触れ、味わう入門書として最適です。

主な内容
- 生きることの原点
- 「聴く」という生き方の意味
- 私とは誰？――自らの存在に聴き入る
- 現代という荒れ野を歩む道
- 生きるイエスを捜し続ける教会
- 「心の深い深い、いちばんの奥底」へ

B6 判・1700 円+税　ISBN978-4-87232-090-9

オリエンス宗教研究所　〒156-0043　世田谷区松原 2-28-5
ＴＥＬ：03-3322-7601　ＦＡＸ：03-3325-5322

全国のキリスト教書店、Book Web、オリエンス宗教研究所ＨＰもご利用ください。

カルメル誌　新刊案内

2017年　春号　No.368

《霊的生活への招き》

第二バチカン公会議後における信仰生活の文脈
福田正起範

信仰生活(再)入門
テレーズと共に歩む　幼子の道(1)—神は「愛」?
片山はるひ

カルメル会の会則に見る
アシェーシスと修道生活(1)
九里彰

現代に響くルルドの霊性(1)
—ルルドとカルメル会の絆
須沢かおり

神の心を揺さぶり、神を動かす人間の心からの叫び
森　一弘

風に吹かれて(15)—十字架の森　原　造

キリストに伴われて季節を巡る(1)　伊従信子

祈りを教えてください(1)
—ルカ福音書による無力な者の祈り　田畑邦治

見える世界の向こう側　森　みさ

神が慈しまれた道(17)　奥村一朗

特集号「三位一体の聖エリザベトの祈り」
—現代人へのメッセージ—

エリザベトと共に生きる—永遠の光のもとで
片山はるひ

続・歴史の中の三位一体のエリザベト
大瀬高司

三位一体のエリザベトにおける苦しみの神秘
九里彰

三位一体のエリザベトによる
「聖書に基づくキリスト中心の生活」
ポーリン・フェルナンデス

父と子と聖霊の唯一の神を信じる
—三位一体のエリザベトと共に
松田浩一

ご案内　　1冊460円　A5サイズ　50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、600円【460円（+送料140円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬+特集号　計　3,000円）を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会
お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

上野毛 霊性センター(東京)　(2018年5月～2019年3月)

黙想企画　＊＊上野毛 聖テレジア修道院（黙想）＊＊

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

２０１８年１２月２４日(月)～２５日(火)朝食≪講話なし、夕食なし≫

聖書深読黙想会　　大瀬高司 神父

２０１８年　６月　２日(土)夕食～　３日(日)午後４時

９月２９日(土)夕食～３０日(日)午後４時

１２月　１日(土)夕食～　２日(日)午後４時

日帰り黙想会　　１３時３０分～１６時　　福田正範 神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

２０１８年　５月１１日(金)　５月２４日(木)　６月２８日(木)

７月　６日(金)　７月２６日(木)　１０月２６日(金)

１１月８日(木)　１１月３０日(金)　１２月１３日(木)

２０１９年　１月１１日(金)　１月２４日(木)　２月　７日(木)

２月２２日(金)　３月　７日(木)　３月２２日(金)

＊各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

＊申し込みは、３か月前より受付致します。

奉献生活者のための黙想会　　福田正範 神父

２０１８年

８月　１日(水)１７時～　８月１０日(金)朝

８月１６日(木)１７時～　８月２５日(土)朝

１２月２７日(木)１７時～　１月　５日(土)朝

奉献生活者ならびに一般信徒のための黙想会

２０１８年

１０月１０日(水)１７時～１０月１９日(金)朝　　福田正範 神父

青年黙想会(男女)　35 歳位まで

２０１９年

２月１６日(土)１６時～１７日(日)１６時　　カルメル会士

召命黙想会(男女)　40 歳位まで

２０１８年

１１月２３日(金)１６時～２５日(日)１６時　　カルメル会士

特別黙想会　　Ｓｒ．伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）

２０１８年

１１月１６日(金)２０時～１８日(日)１６時

＊　日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ(http://www.carmel-monastery.jp)なども合わせてご覧下さい。

＊　こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。

＊　間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・E メール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789

E メール：mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

＊＊＊＊＊＊　日帰り黙想会　＊＊＊＊＊＊

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

"聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ" とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。
「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」（啓示憲章６章２５）信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・・

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想の家）

指導：福田正範神父

＊午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前１０時～ご利用が可能です。
昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。
費用：午後からのご参加・・・・￥２０００、午前からのご参加・・・・￥３５００

日時：２０１８年　５月　１１日　（金）　午後１時30分～4時

５月２４日　（木）　〃

６月２８　日（木）　〃

７月　６　日（金）　〃

７月２６日　（木）　〃

お問合せ・お申込み：
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
〒１５８－００９３　東京都世田谷区上野毛　２－１４－２５
ＴＥＬ．０３－５７０６－７３５５
ＦＡＸ．０３－３７０４－１７８９
Ｅメール：mokusou@carmel-nonastery.jp

カルメル修道会 一日静修 in 名古屋

―カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日―

日　　時　：　２０１８年　5月１２日（土）　１３時 から １７時

テ ー マ　：　聖母マリアを通してイエスに

場　　所　：　カルメル修道会　日比野（本部）修道院　（ カトリック日比野教会 ）

プログラム　：　１３時　～　講話・黙想など
　　１６時　～　ミサ（ミサ中に教会の祈り）、サルヴェ・レジナ（ミサ後）
　　１７時　　解散

・受付開始は１２時半の予定です。（ 聖堂には１２時からお入りいただけます。）
・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他　：　参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
（ 尚、当日は、１，０００円 程度のご寄付を宜しくお願いいたします。 ）

問い合せ　：　郵便、ＦＡＸ、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便　456-0062　名古屋市 熱田区 大宝 ４－５－１７
ＦＡＸ　０５２－６８１－６４４５
E-mail　ｈｉｂｉｎｏ@ｃａｒｍｅｌ．ｏｒ．ｊｐ

今後のスケジュール

６月　９日（土）　７月　７日（土）　９月１５日（土）
１０月２７日（土）　１１月１７日（土）　１２月　８日（土）

何れも原則１３時から１７時まで。ホームページでもご案内しています。

ｈｔｔｐ://ｗｗｗ．ｃａｒｍｅｌ－ｍｏｎａｓｔｅｒｙ．ｊｐ

＜ 主催 ＞　男子跣足カルメル修道会 日比野（本部）修道院　（大瀬神父・ウイリー神父・古川神父）

宇治カルメル会　2018年度 黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）
5月26日(土)～27日(日)「私の愛にとどまりなさい」(ヨハネ15・9)　九里彰神父
7月14日(土)～15日(日)「真の霊性を探す教会」　中川博道神父
9月 8日(土)～ 9日(日)　「人は新たに生まれなければ、
神の国を見ることはできない」(ヨハネ3・3) 九里彰神父
11月23日(金)～25日(日)※2泊3日「目覚めていなさい」　中川博道神父

【聖書深読黙想会】(午前10時～午後4時)
5月12日(土)　中川博道神父　　9月 1日(土)　中川博道神父
7月　7日(土)　九里彰神父　　11月17日(土)　中川博道神父

【水曜の黙想】(午前10時～午後4時)
5月23日(水)　「神の母を祝う」　中川博道神父
6月20日(水)　「まことの食べ物、まことの飲み物」　九里彰神父
7月25日(水)　「預言者エリアとカルメル」　中川博道神父
9月26日(水)　私を生まれ変わらせるユウカリステア　Sr.ロサ
10月24日(水)　「ピンチの時は注意深く」　中川博道神父
11月21日(水)　「永遠の命」　九里彰神父
12月19日(水)　私たちの内に宿りたいインマヌエル　Sr.ロサ

【ゴールデンウィーク黙想会】(午後5時～午前9時)
4月29日(日)～5月4日(金)　「日常の中に隠された宝」　中川博道神父

【聖テレーズの黙想】(午後5時～午後4時)
9月29日(土)～30日(日)　中川博道神父

【カルメル青年の集い】(午前10時～午後4時) 中川博道神父
6月 9日(土)　11月23日(金)

【青年の黙想会】(午後5時～午後4時)
9月15日(土)～16日(日)　中川博道神父

【一般のためのカルメル霊性】(午後5時～午後4時)
10月13日(土)～14日(日)　イエスの聖テレジア　中川博道神父
12月 8日(土)～ 9日(日)　十字架の聖ヨハネにおける愛の変容　九里彰神父

【生活の中での霊的同伴】（金曜　　午後８時〈夕食なし〉～土曜午後４時

５月18日～19日　　９月14日～15日　　九里彰神父
７月20日～21日　　11月 ２日～ ３日

【待降節の黙想】（午後５時～午後４時）
12月１日（土）～２日（日）　「人となられた神」　九里彰神父

【奉献生活者の黙想】（午後５時～午前９時）
５月28日（月）～６月６日（水）　中川博道神父
８月５日（日）～14日（火）　九里彰神父
８月16日（木）～25日（土）　中川博道神父
11月 ６日（火）～15日（木）　九里彰神父
12月27日（木）～１月５日（土）　中川博道神父

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前11:30｛講話なし、各食事つき｝

【クリスマス】
12月24日（日）～12月25日（月）

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会，個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話は、なるべく午前９時～午後５時の間にお願い致します。受付が休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合せ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/

宇治聖テレジア修道院（黙想）の「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。**その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。**よろしくお願いいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：７２０５８０５
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：５６８４５３９１
名義：男子跣足カルメル修道会

男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062　愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-671-1558　Fax:　052-681-6445

金沢黙想案内

毎月第一日曜日　三馬教会　聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会　聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ　レジナ　終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬 3 丁目 324 番地

カルメル会　三馬修道院

三上　和久神父まで

Tel　076-244-7788

聖書深読センターのご案内

１　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
２　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち１箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

１　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。
講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。
費用：６ヶ月２０,３６０円（４、７、10、１月に納入）　継続の場合は１９,１３０円
講師：九里彰師（奇数月）　今泉健師（偶数月）
問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル
私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座課
電話 03-3344-2527（直通）

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局　Ｓｒローザにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
所長：九里彰神父　　事務局長：今泉健神父　　連絡先：Ｓｒローザ
ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543
Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内

心のいほり　内観黙想センター
真命山　霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
慈しみ深き会
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
詩編の会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、 開始の曜日や時間などにご注意ください。

２０１８年以降の予定

今後の内観は、希望者の日程や会場・修道院の都合を調整して行います。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。

電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

（新住所）

◎〒662-0003 兵庫県西宮市鷲林寺町3-46 シトー会

西宮の聖母修道院 司祭館

「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父

FAX 0798-71-5234 Eメール fujinao1944@nifty.com

http://www.com-unity.co.jp/naikan (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

真命山　２０１８年 － 祈りの集いのご案内

毎月第２木曜日（10:00～15:00）

指導者　フランコ神父

＊は聖ザベリオ宣教会ダニーロ・マルケット神父

個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

１月１１日　五旬節続唱「聖霊、来たり給へ」
２月　８日　聖ボナベンツラの祈り
３月　８日　聖アンセルモの祈り
４月１２日　聖フランシスコ・ザビエルの祈り＊
５月１０日　「サルベ・レジナ」
６月１４日　聖心の連願
７月１２日　ロヨラの聖イグナチオの祈り＊
８月　　休み
９月１３日　幼いイエズスの聖テレジアの祈り＊
１０月１１日　アッシジの聖フランシスコ作とされている「祈り」
１１月　８日　シャールズ・デ・フーコーの祈り＊
１２月１３日　「テ・デウム」

申込先
真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com

講話と祈りの集い

～ Week End Emao ～

2018年5月 19日(土)

午後2時～午後5時30分

担当　片山 はるひ

講話・祈り・質問・分かち合い

場　所：上智大学 ２号館１階　カトリックセンター

参加費：無料

幼きイエスのマリー・エウジェヌ神父著の
『わたしたちの念祷』
（いつくしみセンター　本体１500円＋税）を用いて
講話を致しますが、本をお持ちでない方もご参加いただけます。
また、本は当日会場でご購入いただけます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

お申し込み・問い合わせ
ノートルダム ・ ド ・ ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

http://sadhana.jesuits.or.jp/　　★申込み受付・・開始日の８日前まで

コース	日　時	指導者	開催場所	申込み
自己を知る *1泊2日×2=合計4日	5/19(土)9:30-20(日)17:00 5/26(土)9:30-27(日)17:00	Fr植栗	上石神井無原罪聖母修道院	来間(くるま)　裕美子※ ℡　090-5325-2518 045-577-0740 sadhana@7123@yahoo.co.jp
沖縄 サダナⅠ	6/1(金)9:00-3(日)16:00	Fr植栗	沖縄･聖クララ修道院　(与那原町) Tel:098-945-8649　Fax:098-945-8720 Sr.名嘉山	
フォローアップ	6/10(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F　(四ツ谷)	来間(くるま)　裕美子※
サダナⅠ	6/14(木)17:30-17(日)17:00	Fr植栗	カルメル修道会上野毛修道院 黙想の家 (世田谷区上野毛)	同上
入門Ｃ	6/24(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F　(四ツ谷)	同上
サダナⅠ	7/20(金)17:30-23(月)16:00	Fr植栗	女子御受難修道院　(宝塚市)	上田　正美 Tel　090-5651-6495

※不在の場合は、渡辺由子　Tel＆Fax：042-325-7554

◆サダナⅠ（入門A.B.C）
体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナⅡ
Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門Ｃ・・・入門Ａまたは入門Ｂを終えた方。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所 在 地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3－1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-ﾒｰﾙ： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交 通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日 程：

A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

① 2018年 5月 6日（日）～ 5月14日（月）
② 8月14日（火）～ 8月22日（水）
③ 10月 7日（日）～10月15日（月）
④ 12月27日（木）～2019年1月4日（金）

B. 祈りの体験：週末3日間 （金曜日の夕食～日曜日の昼食）
【神との親しさの中で日常を生きるために】

① 2018年 2月 2日（金）～ 2月 4日（日）
② 2月23日（金）～ 2月25日（日）
③ 3月16日（金）～ 3月18日（日）
④ 6月22日（金）～ 6月24日（日）
⑤ 7月13日（金）～ 7月15日（日）
⑥ 9月21日（金）～ 9月23日（日）
⑦ 11月16日（金）～11月18日（日）

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2018年 5月30日（水）～ 6月7日（木） 雨宮 慧 師（東京教区）

◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、 ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1）氏名(ﾌﾘｶﾞﾅ) 2）〒住所 3）電話番号 4）希望日程(番号) を書いて郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やｸﾞﾙｰﾌﾟ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。 （但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。）

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

１４：００～１６：００

【2018年予定】
~~１月１８日　第１３の歌~~　終了
~~３月２２日　第１４及び１５の歌（１～１４）~~ 終了
５月２４日　第１４及び１５の歌（１５～３０）
７月２６日　第１６の歌
９月２７日　第１７の歌
１１月２２日　第１８の歌と第１９の歌
１２月２０日　第２０及び２１の歌（１～１９）
【2019年予定】
１月２４日　第２２の歌
３月２１日　第２３の歌と第２４の歌

＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）

※各黙想会内容･日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内　２０１８年

【入門講座】

毎週金曜日　18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。無料

5/11　神認識の道― 理性と経験を通して
5/18　想像された世界
　　―人間存在の根拠と自然の意味
5/25　歴史と信仰―上と人間との出会い
6/ 1　新約聖書の神理解―主なる父
6/ 8　祈りによる上理解―神の偉大さと近さ
6/15　救い主の役割―人類の待望
6/22　神の国―イエスの告げるメッセージ
6/29　イエスの生き方
　　―神に遣わされて人に仕える

※8月全体、12/28、1/4は休み

【理解講座】

第1・3火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。無料
2年間のコース。途中参加・部分参加も可

5/ 1　救いの歴史―時間における意義
5/15　無限への問い―理性による神理解
6/ 5　世界の根源―創造的自由・進化・摂理
6/19　人生のうちに働く超越
　　―神経験の多様な形

※8月全体は休み

【土曜アカデミー】

下記（予定）の土曜日：

9時30分～12時、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。無料
キリスト教思想史に関心を持っている方。
プログラムの詳細は、別途配布。
参考書：K.リーゼンフーバー著『西洋古代・中世哲学史』『中世思想史』平凡社ライブラリー

2018年度のテーマ：
近代と現代におけるキリスト教と理性

5/12　ロヨラのイグナティウス
　　：活動における観照(16世紀)
5/26　十字架の聖ヨハネ：暗夜の黙想(16世紀)
6/16　アビラのテレサ：観想的祈り(16世紀)
6/30　デカルト：自己認識と神認識(17世紀)

【神学読書会】

第2・第4木曜日：18時～20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と神学に関する文章を読んで、話し合います。
テキスト：第Ⅲ巻「信仰と幸い―キリスト教の本質」
随時、どなたでもご自由にご参加ください。
※祝日、8月全体、12/27は休み。

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂
信仰・宗派を問わず、どなたでも。
随時の参加・遅刻も可。お気軽に。無料
※祝日。8月全体は休み。

【祈りの集い】

下記の土曜日 13時30分～16時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室
講話、黙想、ミサがあります

5/19、6/2、7/7、8/4、9/15、10/6、11/10、12/1

【ロザリオの祈り】

上記同日のミサに続いて 16時10分～16時50分

クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂

【夕方のミサ】

下記の月曜日　18時～19時

上智大学内S.J.ハウス隣クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂

5/28、6/25、7/23、9/10、10/29、11/26、12/10

【坐禅会】

第1、第3月曜日：18時～20時

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋
2回坐り、間に講話。遅刻・不定期の参加も可。
※祝日、8月全体は休み

【通う霊操】

8/18(土)～8/26(日)毎日18時～20時45分

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂
第1の講話・黙想18：00－、第の講話・黙想19：00-、ミサ20：05－。随時、どなたでも。

【黙想会】

上石神井　1泊7000円
6/23(土)10時～6/24（日）14時
10/13(土)10時～10/14(日)14時
申込みの締切りは、初日の10日前

(予定)　関西：9/22(土)13時～9/23(日）15時
宝塚黙想の家　Tel.0797-84-7863 Sr.田中

【坐禅接心】

(予定)　5/3(祝)11時30分～5/5(祝)12時30分
8/10(金)11時30分～8/12(日)12時30分
秋川神冥窟　1泊2400円
申込締切：初日の7日前
参加される方はシーツ2枚と
枕カバーをお持ち下さい。

【感謝のミサ】

7/28(土)14時～
上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂(定員80名)

【クリスマス会】

12/8(土)10時～13時
聖イグナチオ教会岐部ホール4階404

【クリスマスのミサ】

12/23（祝)14時～
上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂

【クリスマスの黙想】

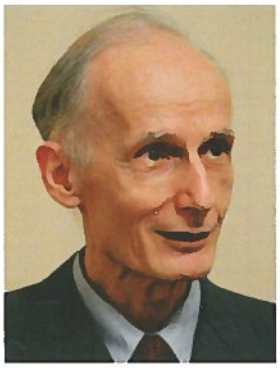
12/25（火)18時50分～20時10分
聖イグナチオ教会マリア中聖堂

―上記の日程に変更がある場合は、
信徒会館1F掲示板でお知らせします。―

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）
信徒会館3階
アルペホール　TEL　03-3263-4584
クラウス・リーゼンフーバー神父
（上智大学名誉教授）
〒102－8571　千代田区紀尾井町7-1
上智大学S.J.ハウス
電話　03-3238-5124（直通）
-5111（伝言）
Fax　03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長（-2004）。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

午後の静修<講話・念祷・ミサ>へのおさそい

≪ 神の母の誕生 ≫

— マリアとわたしたち —

日　時：2018 年 9 月 8 日(土)
12 時 ～ 16 時（受付 11 時）

指　導：中川博道神父　（カルメル修道会）

対　象：どなたでもご参加ください。
※実費費用の為に献金をお願いします。

要申込：住所・氏名・電話番号・所属教会
をご記入の上、
FAX 又はメールにて　（返信します）
定員になり次第〆切(6 月 1 日から受付開始です)
FAX:045-402-5131
e-mail:shihennokai@gmail.com

場　所：聖パウロ修道会 若葉修道院
東京都新宿区若葉 1-5
JR 中央線/営団地下鉄　丸ノ内線・南北線　「四ツ谷」駅下車
サンパウロ→ドンボスコ→ファミリーマートを左折
→甘栗太郎を右折→道なりに右折→90m 直進
四ツ谷小学校の正面

主催：「詩編の会」
問合せ：TEL/FAX：045-402-5131（藤井）
e-mail: shihennokai@gmail.com

『霊性センターニュース』
＊郵送お申込みのご案内＊

ご郵送は、基本的に１月から 12 月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から 12 月までとなります。
例：６月申込の場合は、７月号~12 月号（但し８月号は休刊）となり、
５冊となります。　ご希望の月数×250 円程度の献金を下記口座（新設）へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
≪変わりました≫ reisei@carmel-monastery.jp

「霊性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「霊性センターニュース」は、７月より、宇治霊性センター事務局で編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。
献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

先月は、カルメル修道会ではお祝い続きであった。４月８日には、泰阜女子カルメル会でマリア・アグネス姉妹が荘厳誓願を宣立した。４月２９日には、東京上野毛修道院のヨハネ志村武助祭が司祭に叙階された。男子カルメル会ではひさびさの新司祭誕生である。喜ばしい限りである。彼らの上に主の恵みが豊かに注がれるよう心から祈りたい。

しかし、おめでたい、おめでたいと喜んでばかりもいられない。そうならば、その人の頭がおめでたいということである。というのも、修道士、修道女、修道司祭となる人の召命は、欧米や日本など、経済的に豊かな国々では激減し、どの修道会も深刻な危機に直面しているからである。司祭になることを望む者はあっても、修道生活を望む者はほとんどいない。修道者の存在意義そのものが問われていると言ってよい。

信徒の時代だと言う。では、修道者とは何なのか。

（P. 九里）

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp

Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願致します

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017 年 7 月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日　　５月２４日(木)　午後１２時半頃から
宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しください。

霊性センター事務局　☏0774-32-7456